

農研機構と有機田んぼの生き物調査の実施

▶子どもの学習を通じて、大人（親・生産者）の環境意識を高め、市全体の意識醸成に繋げる。



虫取り網で生き物を採取



生き物を確認する小学生

R6：モデル実施（弥栄）

R7：他地域へ横展開

目標：市全域での実施

生物多様性を見える化し、農産物の付加価値に

▶田んぼの生物多様性を数値化し、農産物の付加価値としてアピールし消費行動の変化を促す。



生物多様性マーク

ランク	評価
S	非常に高い
A	高い
B	やや低い
C	低い

弥栄
Sランク



希少な「イワミサンショウウオ」

R6：見える化

R6：環境負荷低減の取り組み
として「みえるらべる」

R7:30by30・ネイチャーポジティブ
の実現に向けた「自然共生サイト」

5年後に目指す目標

	現状（R6）		目標（R11）
■有機面積	56ha	▶	132 ha
■有機米の販売数量	52,000kg	▶	255,000 kg
■有機米生産者	15人	▶	26 人

※各目標は、有機JAS以外の有機的管理に係る数値を含む。

地域おこし協力隊による「有機農業研修生制度」の構築

- ▶有機農業での自営就農を目指す方に特化した浜田市独自の研修制度をスタート。
- ▶研修中に認定新規就農者となり、研修終了後には機械設備や農地を確保した状態で就農が可能。



経験豊富な農家の下で
3年間の研修

R7：2人



アグリイノベーション大学校
での経営スキルの習得

R8：3人（延べ）



研修期間中に機械施設の
取得準備が可能

R11：15人（延べ）



「日本一の過疎」から「日本一にぎやかな過疎」へ